

解 答

| | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1 (C) | 2 (D) | 3 (B) | 4 (B) | 5 (A) | 6 (B) |
| 7 (A) | 8 (D) | 9 (A) | 10 (A) | 11 (B) | 12 (B) |
| 13 (C) | 14 (B) | 15 (D) | 16 (B) | 17 (A) | 18 (A) |
| 19 (A) | 20 (C) | | | | |

1. 「校長先生がいない時は、スミス先生が学校の責任者です」
- ▶ in the absence of ~で「～が不在の時」という意味になる
 - in the absence of** ~「～が不在の時/～が(い)ないので[ときには]」
We can't promise anything *in the absence of* the manager.
(支配人が不在で私どもは何もお約束できません。)
 - ▶ in one's absence 「(人)のいないときに[所で]」
 - be in charge of** ~「～に対して責任を負っている/～の管理をしている」
She *is in charge of* the sales department.
(彼女は販売部門の責任者だ。)
2. 「私たちが駅に着いた時には、電車はすでに出発していた」
- ▶ 前半の副詞節が過去形であることから, already が用いられている後半は過去のある時点までの完了を表す過去完了形にするのが適切である。
3. 「君がそんなに素晴らしい料理を作ることができるなんて知らなかつたよ」
- ▶ be capable of doing で「～することができる」という表現になる。
 - A is capable of doing** 「～することができる」
That school needs some people who *are capable of* teaching English.
(あの学校では英語を教える人を何人か必要としている。)

「A は～することができる[できない]」の表現

- A is able[unable] to do** — A(主語)は『人』
- A is capable[incapable] of doing** — A(主語)は『人』『物』
- It is possible[impossible] for A to do** — 『人』を主語にしない
She is (un)able to teach French.
= She is (in)capable of teaching French.
= It is (im)possible for her to teach French.
(彼女はフランス語を教えることができる[できない])

4. 「もしもチェックアウトの時間を延ばしたいのなら、ホテルのフロントに連絡をしてください」
- ▶ (B)は、未来における実現する可能性の低い仮定を表す should を用いた倒置で, If you should wish to extend ...と書き換えることができる。なお, If S **should** ~の表現に限って主節の助動詞が過去形にならないこともある。
- [例] If our teacher **should** find out about your cheating, he **will** punish you.
(もし先生が君のカンニングのことを知ったら、君を罰するぞ。)

■仮定法—if 節の if を省略

仮定法の if 節の if を省略すると、後の SV は倒置され、疑問文と同じ語順になる。これは、文章体の表現である。

If there **should** be an earthquake, this bookshelf would fall forward.
→ **Should** there **be** an earthquake, this bookshelf **would fall** forward.
(もし地震が起こるようなことがあれば、この本棚は前に倒れるだろう。)

5. 「面倒かけてすまないのだけど、ダニー、宿題を手伝ってくれない？」
- ▶ I'm sorry to trouble you, but ... で「面倒かけてすまない[申し訳ない]のだけど、…」という会話表現になる。
 - I'm sorry to trouble you, but ...** 「すみませんが…」
cf. I'm sorry to have kept you waiting. 「お待たせして申し訳ありません」

6. 「私は次の金曜日までに宿題を終わらせなければならない」
- ▶ 宿題を終わらせることが話題になっていることから、「～までに」という期限を表す **by** が適切である。 (A)since「～して以来[過去の始点]/～なので[理由]」
- **by** と **until[till]** の使い分け
- by** 「～までには(は)」 —— 『動作の完了の期限』
- until[till]** 「～まで(ずっと)」 —— 『継続の終了時』
- cf. { I'll be here **by** five o'clock. (5時までにはここに来ています。)
I'll be here **till** five o'clock. (5時までずっとここにいます。)
7. 「ぼくには、君が中古車を買う上で必要なあらゆる手助けをしてくれる友人がいるよ」
- ▶ 空欄の直後が the help となっていることに注意。選択肢の中で、定冠詞 the の直前にくることができる数量詞は(A)の all だけである。
- **all the + 名詞** 「すべての[あらゆる]～」
- All the members of this club must attend the meeting.*
(このクラブの部員は全員、会議に出なければならぬ。)
8. 「昨日、サッカーの試合に参加している時に、ケンジは怪我をした」
- ▶ 空欄の直前に接続詞 while があることに注意。while participating とすれば、接続詞を明示した分詞構文としての解釈が可能になる。while 以下は, while he was participating in ... と同意。
- 分詞構文 —— 分詞の前に接続詞を置いて意味を明確にする
- While** skiing in Hokkaido, he twisted his ankle.
(北海道でスキーをしている時に、彼は足首をねんざした。)
- 分詞構文の意味を明確にするために、分詞の前に接続詞を置くことがある。この文では、while を置くことで「時」を表すことを明確にしている。分詞の前に置かれる接続詞は **when** や **while** が多い。
9. 「どちらもソナーを使うので、クジラと同様にイルカも、通過する船の音に混乱する」
- ▶ 文中に both「両方とも」が使われていることから、イルカ(dolphins)とクジラ(whales)の共通点を指摘する文であることが考えられる。よって、「～と同様に」の意味がある(A)like が適切。 (B)alike「同様な」, (C)unlike「違った」, (D)similar「(…と)よく似た」。
- **get[become] confused** 「困惑する」
- I got very confused trying to make sense of the instruction.*
(指示の意味を理解しようとして頭がこんがらがってしまった。)
10. 「新しいソフトウェアのインストールの後、新しいコンピューターシステムには多くの問題が生じていた」
- ▶ 空欄の直後が名詞句になっていることに注目すれば、空欄に何らかの前置詞(句)が入ることが考えられる。したがって、選択肢の中でも文法的にも意味的にもふさわしいものは、(A)の following「～の後で」である。 (C)as a result「[前文の内容を受けて]その結果(として)」, (D)in case of A「(事故など)A の場合は/A に備えて」
- **following** ~ 「～に引き続いて/～のあとで」
- ▶ following は前置詞。
- Following the fall of the dollar, prices rose sharply.*
(ドルの下落に続いて物価が急騰した。)
11. 「スティーブンス氏は私たちの仕事に非常に批判的だ。彼は、私たちがプレゼンテーションにつぎ込んだ時間と努力のすべてに対して、まったく評価をしていない」
- ▶ スティーブンス氏が「私たちの仕事に対して非常に批判的である」ということは、評価をしていないということである。よって、(B)appreciation「正しい評価」が最適である。(A)ambition「大望、野心」, (C)determination「決心」, (D)distinction「区別、相違」。 invest in ~「～に投資[支出]する」。

12. 「野口博士は、人生の多くのアフリカの人々の健康の向上に捧げた」
- ▶ 文意と空欄の後にある前置詞 to に注目すると, **dedicate A to B**「A を B に捧げる」を用いるのが最適である。(A)は **provide A with B** で「A に B を供給する」(= **provide B for A**)。 (C)**treat**「～を扱う」, (D)**operate**「～を操作する」。
 - dedicate A to B** 「A(時間・精力など)を B(人・目的など)に捧げる」
 The teacher *dedicated* herself to teaching English.
 (その教師は英語教育に専念した。)
13. 「国際宇宙ステーションは毎日何回地球の周りの軌道を周回しているのだろう」
- ▶ International Space Station「国際宇宙ステーション」が人工衛星の一種であることを考慮すると, (C)**orbits**「軌道」という単語がふさわしいだろう。 (A)**route**「道, ルート」, (B)**travel**「旅行」, (D)**time**「…回, 度」
14. 「このプロジェクトに私たちがつぎ込んだ労力にも関わらず、私たちはあまり進歩していない」
- ▶ 空欄の直後の不可算名詞 **progress** を適切に修飾できるのは, (B)**little**「ほとんど～ない」だけである。
 - despite** 「～にもかかわらず[讓歩]」 (= **in spite of** ~)
 - ▶ **despite** (= **in spite of**) は前置詞なので後には名詞がくる。一方 **though, although** は接続詞なので後には節 [S + V] が続く。
 He came to the party despite his illness.
 = Though[Although] he was ill, he came to the party.
 (彼は病気にもかかわらずパーティーにやって来た。)
 - put A into B** 「A を B につぎ込む/A を B の中に入れる/A を B に翻訳する」
 The country announced plans to *put* two satellites into orbit by 2010.
 (その国は 2010 年までに 2 機の人工衛星を打ち上げる計画を発表した。)
- | few / little の意味と用法 | | |
|---------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 用法 意味 | 可算名詞の複数形について 『数』を表す | 不可算名詞の単数形について 『量』『程度』を表す |
| 少しの 〔肯定的〕 | <input type="checkbox"/> a few <input type="checkbox"/> a small number of | <input type="checkbox"/> a little <input type="checkbox"/> a small amount of |
| ほとんど～ない 〔否定的〕 | <input type="checkbox"/> few <input type="checkbox"/> only a few | <input type="checkbox"/> little <input type="checkbox"/> only a little |
| 少なからぬ | <input type="checkbox"/> not a few <input type="checkbox"/> quite a few (= many) | <input type="checkbox"/> not a little <input type="checkbox"/> quite a little |
15. 「裁判官は、その男に銀行強盗の罪で懲役 5 年の判決を言い渡した」
- ▶ 空欄の少し後に前置詞 to が用いられていることに注意。 **sentence** を動詞で用いると, **sentence A to B** で「A に B という判決を下す」という意味になる。
 - ▶ (A)**register**「～を登録する」, (B)**serve A to B** 「A(食べ物など)を B に出す」, (C)**order**「～に命令する」
 - sentence A to B** 「A(人)に B という判決を下す」
 The judge *sentenced* the accused to death.
 (判事は被告人に死刑を言い渡した。)
 - He was *sentenced* to 6 years in prison.
 (彼は懲役 6 年の刑に処せられた。)
16. 「新しいヘアスタイルが素敵ですね、ジョーンズさん。本当に似合っていますよ」
- ▶ 「(髪型などが)似合う」という場合には, 他動詞 **suit** を用いる。 (C)**appeal**「(~と)訴える」, (D)**meet**「(要求などを)満たす」。
 - A suit B** 「A(衣服の色・髪型)が B(人)に似合う」
 I like your dress. I think that blue *suits* you.
 (あなたの服は素敵ですね。そのブルーがあなたに似合っています。)

go with/match/suit/fit の使い分け

- (1) A go with[match] B 「A(物)が B(別の物)に合う / 調和する」
- (2) A suit[become] B 「A(衣服の色・髪型)が B(人)に似合う」
- (3) A fit B 「A(衣服などのサイズ)が B(人)に合う」
 - (1) These shoes don't go with[match] my suit[^ me].
(この靴は私のスーツに合わない。) ※『人』を目的語にとれない。
 - (2) That dress suits you very well.
= That dress looks good[nice] on you.
= You look good[nice] in that dress. (そのドレスは君によく似合う。)
 - (3) These shoes fit me. (この靴は私にぴったりだ。)

17. 「この仕事の依頼を受け入れたら、週末に長時間働くことを意味するだろう」

- ▶ 文意より (A)mean「～を意味する」が最適。mean doing で「～することを意味する」という意味になる。

[例] That means running a risk.

(そんなことをすれば危険を冒すことになる。)

cf. mean to do 「～するつもりである」

I'm sorry. I didn't mean to step on your foot.

(すみません。あなたの足を踏むつもりはなかったんです。)

- ▶ (B)depend「(～を)頼る / (～)次第である(on[upon])」, (C)provide「～を供給する」, (D)recommend「～を薦める」。

18. 「ヘザーが今日のパーティーに来ることができなかつたのは残念だね」

- ▶ (A)shame(通例 a ~)「残念なこと / 遺憾なこと」という意味。 (B)regret「(～に対する)後悔, 悲しみ」, (C)sorrow には「悲しみ」のほかに「残念, 遺憾」の意味もあるが, その場合は不可算名詞なので a はつかない。 (D)doubt「疑い, 疑惑」。

□ It's a shame that S V 「S が V するのは残念なことだ」

- ▶ shame(通例 a ~)「残念なこと / 遺憾なこと」(= pity)

It's a shame your wife couldn't come.

(あなたの奥さんが来られなかつたのは残念です。)

19. 「テニスが上手になればなあ。何かアドバイスをくれない?」

- ▶ 空欄の直前の some に注目する。 give some advice で「何かアドバイスをする」という意味。選択肢の中では, 他に (C)suggestion「提案」や (D)recommendation「勧告, 助言」も意味的に近いが, 不可算名詞である advice とは違い, some で修飾される場合には通例複数形となるので, 不適。 (B)thought「思考, 考え」

■ wish の後で使われる助動詞

wish の後に続く仮定法における節では, could や would が使われることもある。

- (1) I wish I could play the guitar as well as you.

(君と同じくらいギターがうまくひけたらなあ。)

- (2) I wish my father would give up smoking.

(父がタバコをやめてくれたらなあ。)

could の場合は「～できる」と言う意味を, would の場合は「～するつもりだ / ～する予定だ / ～してくれる」という意味を表す。

20. 「トーマスはその集団に溶け込むのに困っている」

- ▶ fit into ~で「～に適応する」という意味になる。

[例] He fits perfectly into life in the country.

(彼は田舎の生活にすっかり溶け込んでいる。)

- ▶ 選択肢の自動詞用法はそれぞれ, (A)unite「結合する」, (B)adapt「順応する」, (C)fit「(…に大きさ・型が)合う」, (D)join「(…と)つながる」。この中で, into につながるのは (C)fit である。